

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870200767
法人名	特定非営利活動法人 阜月
事業所名	グループホーム さつき
所在地	愛媛県今治市泉川町1丁目1-29
自己評価作成日	平成24年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者各々の意思を尊重し、それが叶えられるように、職員・経営者共に「寄り添うこと」を大切に考えている。理念に掲げている「穏やかな生活」がおくれるよう、利用者ご自身の“家”として、寄り添いながら安心して暮らせるように努めている。
職員は、利用者の気持を感じ受け止めつつ、「してあげる」ではなく「一緒に」、また、困難なことは「支え合いながら」と言う姿勢で共に暮らしを支えており、ホーム内では、季節の花を水盤に活けるのを得意とされている方、食後の食器の片付けを率先してされる方、長唄が得意な方、前庭の草木への水やりなどを日課にされている方等がおられ、ご利用者は得意分野を活かしながらホームで様々な過ごし方をされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関前の日よけの屋根の下には、様々な種類の観葉植物が並べられていた。玄関には、生け花が得意な利用者が生けた花が飾られており、居間には、小鉢の観葉植物、テーブルにはヒマワリやススキが生けられていて、四季折々にみどりや花を楽しみながら暮らせる環境作りに配慮されている。
●前回の外部評価のあと、事業所で話し合いを持ち、10月から、まずは月2日「調理の日」を作り、食事を手作りすることにされた。その日は台所当番の職員が利用者の希望を聞きながら献立を立てておられ、利用者は、刺身や素麺をリクエストされるようで、「味付けもいいね」と感想を言われるようだ。
●入浴介助時には、利用者の横や後ろから声かけしつつ介助する等して、利用者の羞恥心に配慮した支援を心がけておられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさつき

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

青野 勇

評価完了日

平成 24 年 8 月 1 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げている。地域の高齢者、そのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。なお、新人研修等を通じて、職員には理念が出来た背景を話し、その目的を共有できる様に取り組んでいる。 運営推進会議でも、事業所の理念について話す機会を設けて、事業所の理念を伝えている。</p> <p>(外部評価) 理念は事務所と居間に掲示して、毎朝ラジオ体操を行なったあと、職員と利用者が一緒に理念を唱和されている。理念を唱和して終わると、利用者は拍手をされるようだ。職員は、日々の介護の中でも「してあげる」ではなく「支えあい・助け合いながら」を意識して支援されている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 日々、ご一緒(職員と利用者)に散歩する時などに交わす、地域の人達との会話や挨拶の中でも着実に地域に溶け込んでいると実感を持っている。また、ホーム主催の餅つき大会や花見会等でも、広報にチラシを挟んだり直接ご近所にお声掛けするなど、積極的に地域の人達にも参加を呼びかけ交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 年月を重ね、近所の方とは顔なじみになっており、毎日の散歩時には近所の方から先に声を掛けてくださることも増えている。自治会の会合には管理者が参加されており、出席者の中からは「グループホームとはどんなところ?」「利用するには、どうしたらいいのか?」等の質問があり、管理者は返答をされた。近くの福祉センターで花の展示会等、催し物があれば出かけ、地域の方達と一緒に楽しんでいる。近所の方が「利用者さんで使ってください」とタオル等を沢山持ってきてくださったこともある。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 広報(自治会)配り等を行い、地域の人達と話す機会を多く持ち、私たちの専門性を活かした分野で相談を受ける等しながら、お役立てるよう心がけ活動している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の機会を捉え、自己評価・外部評価の結果や改善計画、入居者の状況、さつきの理念や日常の健康管理、重度化に対する指針、防火安全対策等について議題に取り上げ、その都度ご意見をくみ上げながらサービスの向上に繋げている。	
			(外部評価) 管理者は「会議は堅苦しくなく、出席者が楽しく役に立つような会議にしたい」と取り組まれており、毎回議題を決め、資料を作り行っておられる。ご家族には書面で知らせ、約半数の方が出席されている。会議時、小規模介護施設の避難訓練のDVDを見たり、避難訓練を見学していただき、参加者と安全対策について話し合っておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当課には、我々はNPO法人の精神で事業を進めており、お役に立てることがあれば、積極的に社会貢献活動をして行きたい、と言った考えを伝えている。また、生活支援課(担当者)の方と密に連携をとりながらサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 生活保護受給者の病院受診について等、事業所で判断に迷うような時には、市の生活支援課の担当者の方と相談しながら支援されている。市からの依頼で他施設からの見学を受け入れたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会や勉強会、また、説明会など機会に身体拘束に関する問題について話し合い、その意識を高めている。なお、その人らしさを奪う行為は、ホームの理念に反する事としてして厳しく捉え、職員採用時はもとより、折に触れ指導している。	
			(外部評価) 玄関の戸を開けるとチャイムが鳴るようになっている。ベッドからの立ち上がり時、滑って転倒したことがある利用者には、ベッドから足を降ろす場所に「滑り止めのマット」を敷いておられた。入居当初、興奮が激しく、妄想や言葉が乱暴になる利用者もみられたが、薬物治療とともに、職員はご本人のお話をゆっくり聞き、又、職員間でケアを統一して支援し、現在、落ち着いた生活を送っておられる方がいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時には、虐待の具体的内容を挙げ、ホームの基本的姿勢(虐待は許さない)を明確にしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら問題意識の徹底を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会において、権利擁護について取り上げて話し合いの機会を持ったり、それがテーマの外部研修に参加することで職員の学ぶ機会を確保している。また、管理者はそうした支援に積極的に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながら、ホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、何度かホームに来ていただいたり、お宅訪問する等して話し合う機会を設け、利用者やご家族が質問や疑問に感じる点は遠慮なく言っていただく様、常に申し上げており、十分に納得が得られるように図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者やご家族が意見や苦情等を職員等に訴えやすいよう、不都合や不便はないか、こちらから積極的に問い掛けるようにしている。また、第三者の立場で相談できる人を立て、言いにくい事があれば相談出来る様にもしている。 (外部評価) ご家族へは、毎月の書類とともに、ご本人の事業所での様子を記した写真入のたよりを送付されている。ご家族からは利用者の様子がよく分かるとう好評のようだ。家族会を年に2回開催されており、5～7名の方が参加されている。事業所から「看取りについて」「利用料について」等、ご家族が気になるようなこととお話され、ご家族の意見や要望をお聞きするよう取り組まれている。事業所では、ご家族からの意見や要望は、「職員で話し合い、今後の対応等については、ご家族に報告したい」と話しておられた。	現在は、ご家族からの意見や要望は少ないようであるが、さらに、ご家族と一緒に活動するような機会を積極的に作り、いろいろな場面から具体的に事業所の取り組みを知っていただき、意見や要望を引き出していかれてはどうだろうか。利用する側であるご家族からの意見や要望を採り入れながら、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や勉強会には必ず、管理者兼代表者が出ており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日頃から職員が意見を出しやすい職場環境作りを心がけており、更に、運営者の方から聴くようにもしている。	
			(外部評価) 月に1回、すべての職員が集まり、職員会議を行なっておられる。業務の改善等の話し合いをされたり、利用者の介護計画のモニタリングを行なっておられる。外部研修の報告やテーマを決めて勉強会も行なっておられる。曜日ごとに職員が行う業務を示した「週間業務」を遂行できるよう、職員からの提案で居間の机の前に貼り出すようにされていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所では、早出や食事係のアルバイトを置くなど、ゆとりのある介護を目指した事業運営をしている。また、休日希望制も取り入れながら、働く職場環境の充実に力を入れている。更に、職員に事業経営をオープンにし、広い視野で事業を取らえられるように図っている。	
			(外部評価) 職員自らが自己評価(一部分)や認知症高齢者のBPSDに関わるアンケートにこたえる等しながら、職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉える事が出来るよう取り組んでいる。また、全職員が外部、内部研修を受ける機会を設け、その外部研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。なお、要望があれば資格取得に関する経済的な支援もしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員自らが自己評価(一部分)や認知症高齢者のBPSDに関わるアンケートにこたえる等しながら、職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉える事が出来るよう取り組んでいる。また、全職員が外部、内部研修を受ける機会を設け、その外部研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。なお、要望があれば資格取得に関する経済的な支援もしている。	
			(外部評価) 同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、他の地域密着型事業所とのイベント交流等を持ちながら情報交換をする等して、連携を深めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、他の地域密着型事業所とのイベント交流等を持ちながら情報交換をする等して、連携を深めている。	
			(外部評価)	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはご本人と何度も会い、これまでの暮らしについて時間をかけて話を伺い、聴きだせるように努めている。また、事情によって体験入所を勧めるなど、本人の希望(要望)や不安等について傾聴しながら向き合っている。入所時には、管理者が毎日様子を伺い、安心した暮らしが出来る様に支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から入居されるまで、どのような点に困っておられ、どういった点を求めているか、十分に伺う様になっている。ご家族からの不安や相談には誠意を持って応えてゆく事が事業所の運営方針である。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時、事情を伺う中で、必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度(介護保険)について説明し、助言している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) リハビリ体操や唄、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係を築くことが出来ていると思う。また、庭の草木への水やりや玄関等に飾る生け花をいけてもらう等、興味のある事はお任せしており、家事なども一緒に助け合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に、電話やお便り等で利用者ご本人の日頃の様子や常にお届けよう、情報を入れている。何時でも話し合いが持て、共に協力しながらご本人を支えていける関係を大切にしている。また、家族会、誕生会やお花見会、餅つき等の季節の行事にはご家族に参加を積極的に呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご利用者と一緒に馴染みのお店へ買い物に出かけたり、花や趣味の展示会等にも行っている。また、ご家族や友人等に電話をする、手紙を出すなどして関係が途切れないよう心がけている。 (外部評価) 他法人のデイサービスに通っているご家族の方に、月1回会いに出かけられるように支援されている。又、事業所に遊びに来てもらえるよう声をかけておられる。「お墓参りがしたい」と希望する方には、管理者が同行して、お盆等、年に2~3回お墓参りができるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションやおやつ、ティータイム、散歩や外出等、利用者同士の交流時間は多い。職員は互いの関係に配慮して居間での座席配置も決めている。相互関係を大切にすることで支えあえる関係が築かれている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 一度ホームに入居された方とご縁を大切に、退居後も機会を捉え、その後の様子をご家族に伺ったり、ご相談にものらせて頂いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時はもとより、日頃よりご本人やご家族に生活面での希望を傾聴して、それを記録に残す等している。また、これまでのライフスタイルを受け止め、出来るだけご本人に合った環境作りに努め、その人らしい生活が図れるよう取り組んでいる。 (外部評価) 散歩をしている時等、職員は利用者とはゆっくりできる時間に、個々の思いや暮らし方の希望を聞き取っておられ、日々の介護記録とは別の「傾聴記録」書式に会話の内容を記録されている。それらをもとにして職員会議で話し合い、介護計画の参考にされている。	得た情報をさらに介護計画に反映していけるよう、見やすくわかりやすいアセスメント様式を工夫されてはどうだろうか。それらの情報を介護計画に採り入れて、さらに事業所の理念に沿った支援の実践を目指していかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行う事や、場合によっては、これまで生活されていた住居を訪ね、ご近所の方にも生活状況をお聴きする等、情報把握に努めて、利用者が安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。また、入居後も面会時等で聴けた情報も活かせる様に記録に残しながら活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。バイタルチェックは日に最低2回は行い、その人の顔色や言動に注意しつつ、その他随時計測する事で心身状態の把握に努めている。職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方が出来る様に話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者を班別に決め、経過記録をつけながらモニタリングを行っている。本人やご家族からは、面会に来られた折、また電話等にてご意見や希望を聴きながら、職員会や勉強会等で介護計画等について話し合い、ケアポイント(月に一回程度)項目に取り入れ、現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 入居当初は、ご本人やご家族の意向を採り入れて介護計画を立て、1ヶ月→3ヶ月→6ヶ月と、状態をみながら期間を定めて見直しをされている。日々の介護記録の用紙には介護計画内容を明記して、支援のポイントを書き出し、日々チェックしてモニタリングする仕組みを作っておられる。ポイントの中で重点的に気を付ける項目は、色を変えて記入されていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録の中で、ケアの有り方をわかりやすくまとめ記載し、日々のケアに活かされているか確認(チェック)している。また、日報、夜勤報の申し送りの徹底しており、職員が情報を共有出来る様にしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、希望により自宅への一時帰宅の支援など、出来る事は柔軟に支援している。また、外部ボランティアの活動を受け入れる等もしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域で開催する文化祭や展示会には良く出かけたり、ボランティアによる歌謡、演劇を楽しむ事もある。また、グリーンピア等の施設を利用し、自然との触れ合いを大切にしている。消防署の普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を受けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望を聴き、要望に沿って対応している。また、身体状態の異変や異常には、早期発見、受診を心がけている。また、症状によって医療機関を家族と相談しながら選んでいる。	
			(外部評価) 入居時、利用者それぞれの主治医をお聞きして、希望通りの医療機関で診てもらえるよう支援されている。受診時には、ご家族が付き添っておられるが、ご家族の都合が悪い時には、職員が同行されている。利用者やご家族の事情によっては、月1回往診に来てくださる事業所の協力医に診てもらえるよう、変更される方もある。歯科医も月に2~3回往診に来てくださっており、現在4名の方が診てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常生活において利用者の細かな異常や異変に気付く、報告すると言った体制を構築し、定期的な医師及び歯科医師の往診時にも日常生活の情報やご様子、言動についても適宜報告、相談し、指示を仰いでいる。受診については、毎日の様子を観察している責任者が、かかりつけ医やご家族と相談しながら判断している。	
			(外部評価) 入退院時には、基本的に管理者自らが責任を持って病院関係者及びご家族等との連絡を密に取り合い、情報交換や相談に努めている。また、関係医療機関の関係者とも日頃から連絡を取り合っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 日常生活において利用者の細かな異常や異変に気付く、報告すると言った体制を構築し、定期的な医師及び歯科医師の往診時にも日常生活の情報やご様子、言動についても適宜報告、相談し、指示を仰いでいる。受診については、毎日の様子を観察している責任者が、かかりつけ医やご家族と相談しながら判断している。	
			(外部評価) 重度化や終末期の問題は、以前から常々家族会等でも話し合う機会を持っており、入院時や体調急変時には個別にご家族と意見交換、相談をさせていただいている。連携医療機関やかかりつけ医との問題も事前に話しており、事業所としては、出来る事や出来ない事を明確にしながら取り組む姿勢を示している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期の問題は、以前から常々家族会等でも話し合う機会を持っており、入院時や体調急変時には個別にご家族と意見交換、相談をさせていただいている。連携医療機関やかかりつけ医との問題も事前に話しており、事業所としては、出来る事や出来ない事を明確にしながら取り組む姿勢を示している。	
			(外部評価) 家族会等で「食事が摂れなくなったら事業所で看るのは無理なので病院へ」と説明されている。協力医療機関は、現在、定期的な往診以外で、往診していただくことは難しいようだ。さらに今後、利用者やご家族の希望にも沿いながら、事業所や在宅で安心して看取りを支援できるような地域の環境が整備されるように、市や医療機関等とも「利用者主体の看取り支援」の体制作りについて事業所の現状を伝えたり、考え方をディスカッションするような機会を作ってはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <p>消防署に依頼し、これまでに何度か、事故・急変時の対応等の訓練を受けている。また、普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を職員会等で発表し、急変時等に適切な対応が出来るよう努めており、また、事業所にはマニュアルを整備している。機会を捉えて内部研修(勉強会)にて急変時の対応について学ぶようにしているが、もう少しその頻度が上がるとなお良いのではないかと考えている。</p>	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>災害時の避難訓練は全職員が参加するかたちで、年に2回程度行っている。運営推進会議でもテーマに取り上げ話し合っている。災害時の連絡先や自主防災組織図をホーム内に示し取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に、避難訓練のDVDを見て勉強をされたり、利用者も一緒に避難訓練を実施されている。近所の方は玄関先に避難した利用者の見守りを手伝ってくださることになっている。管理者は、普段から避難の妨げにならないよう「整理整頓」に気を付けるよう話されている。いざという時のために車椅子は数箇所の部屋に置くようにされている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の気分を壊さない声かけやコミュニケーションのとり方は、職員会や勉強会でも、常に心がけるよう話し合っている。採用時はずっとより、プライバシーや個人情報を守る事の重要性やそうした職業意識を高める取り組みを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴介助時には、利用者の横や後ろから声かけしつつ介助する等して、利用者の羞恥心に配慮した支援を心がけておられる。トイレの棚には利用者の排泄用品を置くようになっており、カーテンで目隠しされていた。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <p>食べ物や飲み物には出来るだけ選択の幅を持たせ、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。また、普段の関わりの中で、本人がどのような希望や要望を持っているのか、聞いたり感じたりしながら介護に携わっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しないよう常に話し合っている。「自分らしい生活」はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者、管理者、職員は心がけている。また、日中、職員の数を増やし、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切にして、利用者の暮らしの希望に添える努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院利用の際、希望者があれば、かかりつけの店に予約を入れ、送迎支援をしている。外出時に着替えの服をご本人に選んでもらったり、利用者専用の化粧箱を用意しているので、外出やイベントの時などに使用される利用者もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 副食については、主に外注としているが、月の第二、第四(昼・夕)を調理の日と決め、利用者の希望に添えるようにしている。利用者さんの中には積極的に台所の手伝いをされる方もおられる。また、日常的にとはいかないものの、一緒におやつを作ったり、食材の下ごしらえを手伝ってもらう機会を設けている。 (外部評価) 前回の外部評価のあと、事業所で話し合いを持ち、10月から、まずは、月2日「調理の日」を作り、食事を手作りすることにされた。その日は台所当番の職員が利用者の希望を聞きながら献立を立てておられ、利用者は、刺身や素麺をリクエストされるようで、「味付けもいいね」と感想を言われるようだ。外注の日も野菜をいただいた時には、一品追加する等されている。調査訪問時、昼食後には、職員が洗った食器を拭いている利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残し、必要量が取れているか一人ひとり気をつけている。また、嚥下困難な方や偏食の利用者には、とろみをつけたり、ご飯はおにぎり、お粥にする等して、形態や調理方法を工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には定期的に義歯のポリデント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用しての口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっている。この表を元に申し送りを行い、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。日中はこまめにトイレ誘導を行い、入居者の状態に合わせた支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で個人の排泄状態を把握して、トイレ誘導を行なっている。トイレの手すりはカーブになっていて、利用者がご自分の力を使って立ち上がりやすくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には、その人の好みや体質等を考えながら豆乳や牛乳等を飲んで頂いたり、お風呂で腹部マッサージを行うなど、出来るだけ自然排便に向けた支援をしている。また、個人にあった漢方薬(緩下剤)があればその薬を継続するようにしている。	
			(外部評価) 男女の入浴時間をずらしたり、希望を聴いたりして、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様に配慮している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 男女の入浴時間をずらしたり、希望を聴いたりして、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様に配慮している。	
			(外部評価) お風呂は週5日準備しておられ、利用者は2~3日に1回入浴されている。お風呂が好きで毎回入られる方もある。同性介助を希望する方には希望に沿うようにされている。現在は全員湯船で温まれるよう支援されており、ご自分の力で湯船に浸かるのが困難な方には、「シャワーキャリーパネル型介護浴槽」を利用して支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、倦怠表情の著しい方には居室で休んで頂くなど、適時休める無理の無い生活を送れるように支援している。安眠の妨げになる事を出来るだけ排除したり、就寝前にはゆったりと過ごしてもらい、刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。また、睡眠状態をチェックし日中の過ごし方なども考えた支援をしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関する事は、日々の申し送り項目の中に入れ、服薬の変更やあり方等について確認している。また、服薬管理の徹底や利用者の症状、変化に早期に気付く為の取り組みを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや創作活動、言葉の体操、ことわざ等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、写真を飾る、唄、メダカを飼う、生け花、庭で草木を愛で、水やりをする等、個人々の関心事や趣味の中で楽しめる支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日には毎日散歩に出ている。また、いつも行けるといわけではないが、ご本人の希望等もお聴きし、買い物、ドライブ、季節の花見、文化祭、展示会等の外出支援をしている。また、ご家族と一緒に外出の機会が増えるような支援を心がけている。	
			(外部評価) お天気の良い日は近くの公園や神社、鯉のいる川へ散歩に行かされている。少人数のグループでスーパーへ買い物に出かけたり、ドライブをされている。姉妹が住む九州にご家族と泊まりがけで出かけた方がおられ、ご本人は、「足が丈夫なあいだはどこへでも行くんよ」と話してくださった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、自由に使えるお金をホームでお預かりして外出時等につかって頂いており、その人の能力にあった金銭管理を行い支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要性や希望に応じ、ご家族や友人、知人との電話連絡等の支援を行っている。また、手紙や年賀状などが出せるよう協力支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間から、庭への出入りが自由に出来、玄関からは植物を鑑賞しながら寛げる場所をつくる等、四季の花を楽しめる環境を大切にしている。玄関やロビーには、活けた花や観葉植物を飾っており、心地よい生活環境には特に力を注いでいる。また、音などの刺激を防止するなど必要に応じて適時、工夫を凝らしながら支援している。</p> <p>(外部評価) 玄関前の日よけの屋根の下には様々な種類の観葉植物が並べられていた。玄関には、生け花が得意な利用者が生けた花が飾られており、居間には、小鉢の観葉植物、テーブルにはヒマワリやススキが生けられていて、四季折々にみどりや花を楽しみながら暮らせる環境作りに配慮されている。壁には外出時の写真が飾られていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ロビーに移り、花を愛でたり坪庭を見て一人でゆっくりと寛いだり、居間では皆と楽しくおしゃべりする等、思い思いにロビーと居間とで空間を使い分け、過ごせるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居当時から、馴染みの物や道具を持ってきてくださる様、ご家族にもお願いしており、箆箆や鏡台、仏壇を持って来られている。また、亡夫の写真、賞状、人形等も飾られるなど、ご本人が好まれる空間となり、居心地の良い居室作りを常に考え、心がけている。</p> <p>(外部評価) 以前から使っておられた鏡台を持ち込まれ、毎日、化粧する方がおられ、若い頃からの趣味で集めた人形をケースに入れて飾っておられる居室もみられた。仏壇に毎朝お茶を供える方もいる。編み物が得意な方の居室には編みかけの毛糸があった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、椅子や小テーブルの置き場所を決める事や通路や公共の場を塞ぐ形で物を置かないよう整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、必要に応じてベット周辺にワイヤレスや滑り止めマットを配置している居室もある。</p>	